

松江市立病院 だより

Vol.82

2018年
冬号

CONTENTS

新年にあたって	1
冬は感染症に注意！	
感染症の対策	2
冬によく見られる子どもの感染症	3
高齢者の肺炎 ー早期発見と予防ー	
感染性腸炎（腸感冒）	4
インフルエンザの検査	
風邪は薬を飲んでも治らない！？	5
〈ヘルスケア・キッチン〉	
生姜（しょうが）雑炊	6
「やけどをしない」が1番！	7
〈看護局より〉	
助産師がお産や育児のお手伝いをします	
わくわくお産の学校「こんにちは赤ちゃん」	8
〈地域連携だより〉	
がん相談支援センター	
医療懇話会	9
新任医師紹介	
がん市民公開講座	
患者さんからのご意見・ご質問	10
松江市立病院の理念・基本方針	11
診療日程表	12



新年にあたって

松江市立病院長 紀川 純三



平成30年、明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年の干支である戌年はとても縁起のよい年だそうです。

当院において昨年は、さまざまな機材、設備の充実を図ることができました。高度ながん診療体制整備の一環としてがんセンターを開設し、定位放射線治療の専用装置であるサイバーナイフを山陰で初めて導入しました。外来化学療法室には十分なスペースを確保し、安全かつ快適に治療が受けられる環境を整備しました。がん治療の副作用や合併症の予防と軽減のために、口腔ケアをはじめリンパ浮腫外来、スキンケア外来や栄養相談室、さらに公立病院では初めてとなるがん患者のためのフィットネスルームを設けました。また、消化器病センターの改築整備により、超音波治療、カプセル内視鏡を含む内視鏡検査・治療が充実しました。手術室には、圏域初となる3Dの鏡視下手術システムが入りました。これらの基盤整備が整い、地域完結型医療の推進が期待されます。

今年は、充実した機材、設備を有効に活用することで、当院の役割をさらに明確にしていきたいと思っております。すべての職員が誠実に医療に取り組み、病院機能の充実強化、他医療機関との連携を進め、より質の高い医療を提供することにより、地域医療への貢献を果していきます。今年もよろしくお願いいたします。



日本医療機能評価機構
認定第 GB257号



病院モットー

愛情 信頼 奉仕

感染症の対策



感染対策室長
田中 雄二
インフェクションコントロールドクター
(感染対策専門医)

1. 感染症とは

感染症とは、ウイルスや細菌などの病原体が人の体内に侵入（感染）し、増殖することで発病します。感染症の対策には病原体がどのように感染するのか、その感染経路を知っておくことが大切です。

2. 主な感染経路

日常生活で気をつけたい病原体の主な感染経路には、飛沫（ひまつ）感染、空気感染、接触感染の3種類があります。

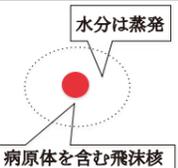
a. 飛沫感染

感染症患者さんがせきやくしゃみ、会話などをした際に、口から飛び散った病原体を含んだ飛沫が近くに人の鼻や口に入ると感染します。飛沫は直径 $5\mu\text{m}$ 以上と比較的大きく、1m前後で落下します（表）。マスクの使用や患者から1～2m以上離れることで感染の可能性は低くなります。飛沫感染で発病するのは、インフルエンザ、おたふく風邪、風しんなどです。

b. 空気感染

病原体を含んだ飛沫から水分が蒸発した飛沫核を鼻や口から吸い込むことで感染します。飛沫核は直径 $5\mu\text{m}$ 以下と小さく軽いので空気中を長い間浮遊します（表）。微粒子マスク（N95マスク）で予防し、患者さんは特別な換気システムを持つ個室に隔離します。空気感染で発病するのは、結核、はしか、水ぼうそうなどです。

表. 飛沫と飛沫核の違い

	飛沫	飛沫核
		
感染様式	飛沫感染	空気感染
直径	$5\mu\text{m}$ 以上	$5\mu\text{m}$ 以下
飛散距離	短い（約1m）	長い

c. 接触感染

患者さんの皮膚や粘膜に直接接触して（握手、キス、性行為など）感染する直接接触感染と、病原体で汚染されているドアノブ、手すり、便器などに触れた手指で目や口、鼻などに触れて感染する間接触感染があります。病原体で汚染された食品や水を飲食して発病する経口感染も間接触感染の1種です。感染対策は、患者さんとの接触や汚染した食品への注意、手指衛生がポイントとなります。直接接触感染で発病するのは、エイズ、性器クラミジア感染症など、間接触感染や経口感染で発病するのは、腸管出血性大腸菌感染症（O157など）、ロタウイルスやノロウイルスによる胃腸炎などです。

ただ、病原体の感染経路は1種類とは限りません。

例えば、インフルエンザは飛沫感染ですので予防にマスクは欠かせませんが、間接触感染でも発病します。ドアノブや手すりに付着したインフルエンザウイルスはおおよそ2～8時間程度感染力があるとされ、汚染されたそれらに触れた手で目をこすっても発病する可能性があるのです。

3. 病院に来院される場合の注意事項

当院では飛沫感染や空気感染対策のための患者隔離はもちろんのこと、来院者がひんぱんに触れる場所は適宜清拭し、間接触感染対策にも努めています。特にインフルエンザの流行時期に来院される際は、**マスクの着用や手洗いの励行**をお願いします。

また、抵抗力の弱いお子さんや高齢者は、**診療の場合のみ**来院されることをお勧めします。

冬によく見られる子どもの感染症



小児科科長
辻 靖博

冬場に子どもたちの間で流行し、しばしば重症化して入院加療が必要となることもある感染症。まずは予防が一番ですが、感染した場合をケースごとに紹介したいと思います。

インフルエンザ

通常の風邪に比べ症状が重く、急激な高熱、関節痛、筋肉痛、頭痛などで発症し、強い倦怠感（けんたいかん）や食欲不振などを伴います。肺炎や脳炎などを合併し重篤化することもあるので、特に乳幼児や基礎疾患を持っている子どもさんは注意が必要です。流行時には手洗い、消毒、マスクの装着などで予防に努めましょう。また、予防接種しておくことをお勧めします。特に小さいお子さんをお持ちの方は、同居するご家族も予防接種を行い周囲が予防しておくことも大事です。残念ながら感染してしまった場合でも、ウイルスの増殖を抑える特効薬もあり、発症早期に投薬することで症状を早く鎮めることも可能です。早めに医療機関を受診し、診断、治療を受けましょう。また、異常行動や意識障害、痙攣（けいれん）が見られる場合は、脳炎を合併している可能性がありますのですぐに受診しましょう。

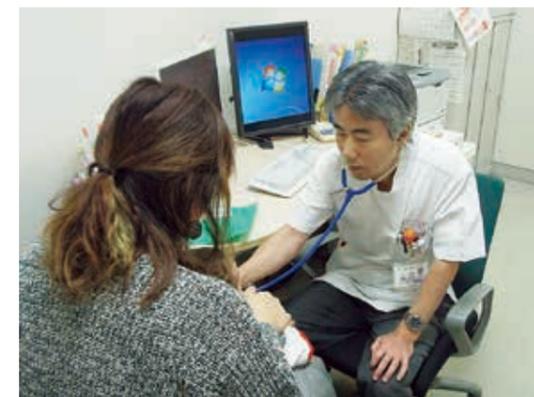
RSウイルス感染症

毎年冬に乳幼児を脅かす呼吸器感染症です。乳幼児が感染すると発熱や鼻汁、せき、ゼイゼイ、ヒューヒューという呼吸音（喘鳴（ぜんめい））といいますが、しばしば細気管支炎や肺炎などにより呼吸困難を引き起こします。特に幼い乳児や早産児、肺や心臓に基礎疾患を持っている子どもさんは重症化しやすく、より注意が必要です。RSウイルスに対する特効薬はありませんが、せきや鼻汁などの症状に効果のある薬を投与することである程度和らげたり悪化を防ぐことができますので、症状があれば早めに医療機関を受診し、診断、治療を受けましょう。また、脱水気味になるとたんや鼻汁が粘って出にくくなるので、水分摂取に努めることも重要です。流行時は手洗い、マスク、人混みに行かないなどの予防対策も肝要です。

ロタウイルス胃腸炎

主に1～4月ごろに流行し、突然の嘔吐（おうと）、下痢で発症し、発熱も伴う消化器感染症です。通常のウイルス性胃腸炎に比べ嘔吐、下痢ともに症状が強く現れます。下痢は白色調の水様便となることが多く1日に10回以上も出たり、嘔吐は2～3日続くこともあり、乳幼児では容易に脱水症を引き起こします。また、けいれんや脳症、腸重積症といった重篤な病気を合併することまれに見られます。ロタウイルスに対しても特効薬はなく、整腸剤、鎮吐剤などでの対症療法しかありませんが、とにかく脱水にならないよう水分摂取に努めることが大事です。摂取する水分も、塩分や糖分を含んだ補水液がより有効です。はき気がある時は少量ずつをこまめにとらせてみましょう。嘔吐で水分摂取ができない、下痢便が頻回に出ているなどあれば、点滴での水分補給が必要です。症状が強いようなら早めに医療機関を受診しましょう。感染予防には手洗い、消毒が重要となります。また、ロタウイルスに対する予防接種があります。これは乳児期早期に内服するワクチンで、現在は任意接種のため全額負担になりますが、乳児期に積極的に接種して予防しておくことをお勧めします。

そのほか、溶連菌感染症、おたふく風邪、水ぼうそうやノロウイルスなども比較的冬場に流行しやすいといわれています。いずれも、手洗いなどの基本的な予防が重要であり、保育園や周囲の流行などの情報に常に留意してください。特効薬がない場合でも早めの治療によって症状をある程度緩和したり、重症化を防ぐこともできますので、疑わしい症状があれば早めに医療機関を受診し、診断・治療を受けましょう。



高齢者の肺炎 ー早期発見と予防ー

約100年前、ある高名な内科医が「肺炎は老人の友」と述べていますが、現在においてもまさにその通りです。わが国では高齢化に伴い、平成23年から肺炎は、がん、心臓病に次いで、死因の第3位に浮上しています。最近の厚生労働省による人口動態統計では、肺炎で亡くなる方の約97%が65歳以上の高齢者であり、月別の死亡率で見ると12月から5月までが多くなっています。

この肺炎の対処について大切な事は、早期発見、治療と予防です。早期発見には肺炎の症状を知っておく事が重要になります。一般的に肺炎は、せき、たん、発熱、息苦しさ、時に胸の痛みという症状が出ます。発熱は多くの肺炎の方に見られる症状ですが、高齢の方では発熱が見られない場合もあります。さらに、意識が悪くなる、食欲がなくなる、体が動かさない、という症状も高齢者の肺炎の症状である場合があるので知っておく必要があります。

予防に関しては、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンを接種することで、肺炎による入院を減らすことが明らかになっています。また、肺炎の発病や死亡を減らす傾向があると考えられています。肺炎球菌ワクチンについては、平成26年10月から定期予防接種となりました。詳しくはお住まいの市町村にお尋ねください。



肺炎は、これらを引き起こしたり悪化させたりします

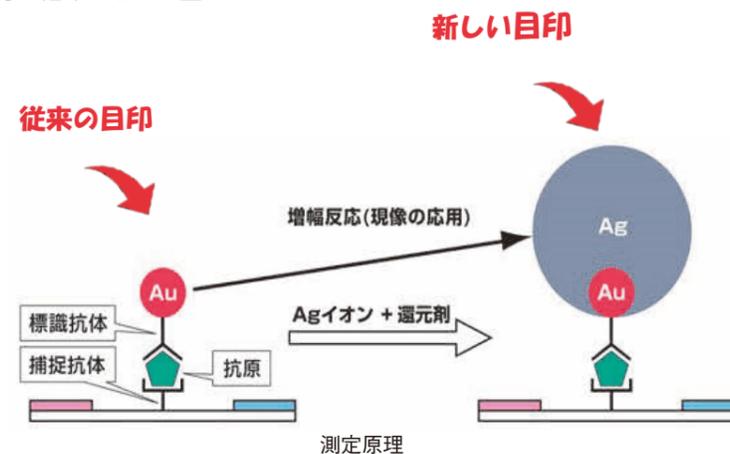
呼吸器内科科長
小西 龍也



インフルエンザの検査

インフルエンザの検査は、検査する材料を鼻の中から綿棒で拭い取るだけで簡単に行うことができます。検査の結果も10～20分くらいでわかります。

通常の場合は、検査時期は、発症まもない間は結果がうまく出ないので、発症してから12～48時間がベストです。しかし、当院の検査では目印を大きくして感度を上げる方法(図)なので、発症後4～6時間で結果がわかります(個人差はあります)。また昨シーズンのように発熱を伴わない感染事例も多く、インフルエンザ流行時期は高熱がなくても、のどの痛み、せき、関節痛などあれば早めに医療機関を受診しましょう。インフルエンザ感染の診断は、検査結果や臨床症状から医師が総合的に行います。



検査部副技師長
境 洋子



感染性腸炎(腸感冒)

感染性腸炎とは、細菌、ウイルスなどの病原体が腸に感染してさまざまな消化器症状を引き起こす病気です。山陰地方では腸感冒と言った方がなじみ深いでしょうか。ウイルスが原因になることが多く、毎年秋から冬にかけて流行します。症状は下痢、嘔吐(おうと)、腹痛、発熱などです。ウイルス性腸炎には抗生物質は効果がないため、治療の原則は脱水の補正です。水分や電解質を含むスポーツドリンクを少量ずつひんぱんに摂取するようにしましょう。下痢と嘔吐はウイルスなどの病原体を身体から排出しようとする防御反応ですので、下痢止めは一般的には使いません。

冬場で大流行するノロウイルス腸炎の原因となるノロウイルスは非常に感染力が強く、通常のアルコール消毒は効きません。手洗い、うがいによる感染予防と次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効です。次亜塩素酸ナトリウムを含む家庭用塩素系漂白剤(ハイターなど)10mlと水2Lを混ぜて、ドアノブや手すりなどの消毒に使います。嘔吐物や便などが触れた場所には同剤10mlと水500mlを混ぜた濃度の高いものを消毒液として使います。使用時にはエプロン、マスク、手袋を着用することが大切です。

腸感冒にかからないように手洗い、うがいを心がけましょう。



消化器内科医師
竹田 和希



風邪は薬を飲んでも治らない!?

あなたは風邪をひいたとき、すぐに病院にいきますか? 市販の風邪薬を飲みますか? それとも暖かくしてしっかり休息をとりますか?

風邪の原因の約9割はウイルス感染によるものだといわれています。実は風邪のウイルスに効果がある薬はありません。いわゆる「抗菌剤(抗生物質)」は細菌による感染に効く薬で、ウイルスにはまったく効き目がありません。つまり風邪をひいたからと言って抗菌剤を処方してもらっても意味がないのです。逆に飲むことで腸内環境が悪くなり、下痢をしたり、免疫力が低下して治りが遅くなることもあります。

また風邪をひくと熱が出たり、鼻水が出たり、せきが出たり...いろいろな症状が出ます。その症状を一時的に抑えるために病院では解熱剤やせき止めなどが処方されます。しかし、この薬は「一時的に症状を和らげるため」の薬であって、根本的な原因であるウイルスには効果がなく、「風邪を治す」薬ではないのです。それどころか、ウイルスを排除しようと鼻水で洗い流し、せきで体外へ飛ばし、熱を出して身体が戦っている、つまり自分の体の防御反応を邪魔しているかもしれません。あまりにも症状が強い場合は、症状を和らげることで食事が取れるようになったり、しっかり睡眠が取れるようになったりするために薬を飲むのは構いませんが、風邪は自己免疫力で治るといわれています。まずは暖かくして、ぐっすり寝ることです。



薬剤部技師長
酒井 牧子



ヘルスケア・キッチン

～風邪をひいたときには～

生姜(しょうが)雑炊

今回は私が紹介します♪

栄養管理部
管理栄養士 明事 典子



材料(2人分)

鶏胸肉…100g、卵…2個、生姜1/2かけ、水(またはだし汁)…300ml、鶏ガラだし顆粒^{かりゅう}…小さじ2杯、しょうゆ…小さじ1杯、みりん…大さじ1杯、温かいご飯…2人分(100g×2)

*お好みで、ミツバ・ネギなど

作り方

- 1 生姜はおろしておく。
- 2 鶏胸肉を小さく切り、水(またはだし汁)・調味料を鍋に入れて煮る。
- 3 沸騰したら、おろした生姜を入れてさらに煮る。
- 4 肉に火が通ったら、ご飯を入れる。
- 5 味見をして、塩(分量外)で味を調える。
- 6 卵を溶いて回し入れる。
- 7 茶碗に盛り、お好みでミツバ・ネギなどを飾る。



エネルギー(1人分)
410kcal

塩分(1人分)
1.5g

一口メモ 雑炊・おかゆが消化によい理由

胃腸の機能が低下しているときは、なるべく消化吸収に負担をかけない食べ物を選ぶことが重要です。

雑炊やおかゆに入っているお米には「炭水化物」を多く含んでいます。体のエネルギー源として必要な3大栄養素の中では、炭水化物>タンパク質>脂質の順番で消化吸収されますので、炭水化物が最も胃腸に負担をかけにくくなります。

「やけどをしない」が1番!

皮膚科科長
松木 真吾



寒くなるとやけどをされて受診する方が多くなります。皆さんも一度はやけどを経験されていることでしょう。ちょっとしたやけどであればちょっとした後悔ですみますが、場合によっては一生後悔することになります。

やけどに関する究極の結論は「やけどをしない」ことです。「やけどをしたらどうする」よりも、やけどをしないように生活環境を整えましょうと啓発することが優先されます。小さいお子さんで炊飯ジャーの蒸気に手をかざしてやけどをするケースが多く見受けられます。これは蒸気が出ない炊飯ジャーに変えるだけで防げ



ます。みそ汁などをこぼしてやけどをする場合、熱いうちは食卓に並べないというひと工夫で防げます。コンロの火が衣服に燃え移ることがありますが、オール電化に替えれば防げます。安全はお金と工夫である程度手に入れることができますので、後悔する前に安全なものに替えておくことが非常に重要です。なぜ、それほど強調するかというと、やけどをしてしまうと残念ながら元通りにはならないからです。ごく軽度のやけど以外はかならず傷が残りますし、それを元通りに戻す技術は世界中どこを探してもありません。神業のように治療するブラックジャックは存在しないのです。

とはいえ運悪くやけどをした場合どうしたらいいでしょう。まずは焦らず十分に水道水で冷やしてください。濡れたタオルでもかまいませんが、氷を直接当てることはやめてください。そのあとで必要であれば医療機関を受診しましょう。冷やさずに急いで来られる方がいらっしゃいますが、すぐに冷やしていないため逆に傷は深くなり治りが悪くなります。

また低温やけどをご存知ですか。こんな低い温度でやけどを?とびっくりされますが、電気毛布でも長時間同じ場所を熱しているとやけどをします。低温やけどは中まで深く焼けてしまっている場合が多く、治療には手術が必要になります。手術しない場合でも治るまで数ヵ月かかります。高齢になるとどうしても暖房器具の使い方が密に長時間になりやすくなりますので、エアコンで部屋全体を暖めるようにしたり、できるだけ安全な暖房器具を使うようにしましょう。

最後に治療のお話をします。やけどを我々が診察するときすぐに病状を判断しません。というのも1週間程度たたないとどの程度の重症度かわからないからです。その間に何が重要かということ、とにかく患部を刺激しない、バイ菌を付けないということです。この2点が守れないと、どんどん悪くなってしまいます。治療はやけどが治りやすい環境をつくることとイメージしてもらえればよろしいかと思います。決して魔法のような治療はありませんので、くれぐれも注意してください。



助産師がお産や育児のお手伝いをします

4階東病棟副看護師長
野津 恵美子
(アドバンス助産師)



お産を控えている皆さん！ どんなお産がしたいですか？「楽なお産がしたい」「するするぽんっと産みたい」「夫や子どもの立ち合い分娩をしたい」などでしょうか。一生のうち数回の経験を大事にしたい、満足したものにしたいと思うのは当然のことでしょう。

当院では現在外来、病棟合わせて17人の助産師がお産や育児のお手伝いをしています。外来では妊婦健診の度に妊娠生活や分娩の準備について相談や指導を行い、月2～3回母親教室も行っていきます。そしていったん入院しお産がはじまれば、助産師がその知識や技術をフルに発揮しお産が終わるまで寄り添います。医師とは日ごろから情報交換をしており、連携して安全なお産を支えています。そしてお産の後は育児支援が中心となります。核家族化が進み、育児経験の少ない方が多くなってきました。お産の後スムーズに育児が開始できるように、赤ちゃんの抱っこやおむつ交換の方法、お風呂の入れ方などの子育ての方法と一緒に進みます。おっぱいの飲ませ方など母乳育児の支援も行っています。母乳外来を外来、病棟の両方で行い、連携して退院後のおっぱいや育児に対する不安などに対応しています。その他にも退院後の育児を支えていくために、地域の保健師に育児支援の依頼を行っています。

さて、このたび当院に5人の「アドバンス助産師」が誕生しました。「アドバンス助産師」とは、平成27年度からはじまった、専門的で質の高い助産ケアを提供できる助産師であることを認証する制度です。高い知識と技術をもとに適切に判断し、正常な分娩のケアができる助産師であることを認められたものです。陣痛が始まり無事赤ちゃんが誕生するまで、心強いサポーターの一人として安心して任せていただけるものと思っています。

全国では11,002人の助産師が認証され、私もその中の1人です。アドバンス助産師は皆さんに安全・満足な助産ケアを提供することはもちろん、助産ケアに携わるスタッフの中心として、スタッフの教育も担っています。スタッフ全体のレベルアップに努め、皆さんの期待に応えるよう日々努力を積み重ねています。

アドバンス助産師はそれぞれ認証バッジをつけてケアを行っています。遠慮なく声をかけてください。一緒に安全・満足なお産に向かって頑張っていきましょう。



わくわくお産の学校(母親教室)

「こんにちは赤ちゃん」

- 内容：①妊娠中の過ごし方など(安定期の方)
②出産に備えてなど(28週以降の方)
③赤ちゃんのことなど(28週以降の方)

日時：開催日と開催内容は、別途ご案内します。
14:00～16:00

場所：本館2階講堂

詳しくは、産婦人科外来にお尋ねください。



地域連携 だより

松江市立病院では、周辺医療機関と連携を図りながら、医療の充実に努めています。

治療と仕事の両立支援相談窓口の開設

県内初

がん相談
支援センター

がんの治療と仕事を両立するうえでは、さまざまな悩みを抱えながら誰にも相談できないでいる方もいらっしゃると思います。

当院がん相談支援センターでは9月から、「がんで治療中の患者さんの「治療と仕事の両立」に関するさまざまな相談」に応じる相談窓口を開設しました。

例えば

- がんと診断されたけど、仕事を続けたい。
 - 病気のことを会社にうまく伝えられない。
 - 治療と仕事を両立できるか不安。
 - 今後の働き方について誰に相談したらいいかわからない。
- これらの悩みを気軽に相談してみませんか？



【相談窓口】

がん治療中の方であれば、どこの医療機関で治療されていてもご相談に応じます(無料)。

- ・場 所：当院がん相談支援センター(がんセンター内)
- ・日 時：毎月第1水曜日 13:00～16:00
- ・相談対応者：島根産業保健総合支援センターの両立支援促進員(社会保険労務士)

【問い合わせ先】

松江市立病院 がん相談支援センター(がんセンター内) ☎0852-60-8000(代)

医療懇話会

平成29年度松江市立病院医療懇話会

地域の診療所や関連病院の先生方を招いて、当院で取り組んでいる医療を紹介したり、当院の医師との交流を深めたりして、お互いの連携を強化する機会として、年1回松江市立病院医療懇話会を9月に開催しています。

今年度も9月21日(木)にホテル一畑で、診療所の先生など院外から63人の参加をいただき、総勢155人で盛会に開催しました。

講演会では、次の講演を行いました。

- 「泌尿器科領域における低侵襲手術」(泌尿器科科長 瀬島健裕)
- 「全面更新した当院の消化器内視鏡」(消化器内科科長 堀江聡)
- 「腹腔鏡下手術2」(消化器外科科長 若月俊郎)

懇親会では、参加された先生方から、これからの地域連携のあり方や、当院に対する役割や期待など率直なご意見をいただきました。

地域医療構想などで、医療機関の機能分化と連携による地域完結型の医療体制が一層進められています。当院は、地域医療支援病院として、地域の診療所や関連病院との機能分化と連携をさらに充実させていきます。引き続きご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



新任医師紹介



呼吸器内科
矢内 正晶
 やない まさあき
 — 専門分野 —
 呼吸器一般
 肺がん

より良い医療を提供できるように努力いたしますので、よろしくお祈りいたします。



神経内科
中下 聡子
 なかした さとこ
 — 専門分野 —
 神経内科全般

初めての島根県勤務で慣れないことも多いですが、よろしくお祈りいたします。



整形外科
戸田 直樹
 とだ なおき
 — 専門分野 —
 整形外科一般
 関節外科

患者さん一人ひとりに対して丁寧な診察を心がけています。最善の治療を提供できるよう全力を尽くします。

TOPICS

がん市民公開講座

11月12日(日)に、がんセンター講堂にて「がんとともに生きる ～一緒に“これから”を考えませんか?～」をテーマに、がん市民公開講座を開催しました。国民の2人に1人ががんにかかる時代になり、がんと付き合いながら暮らしていくことがあたり前になりつつあります。がんになっても前向きに生活を送っていくことが大切です。

当日は、次の講演を行いました。

- 「がんとともに生きる」(基調講演)(緩和ケアセンター長 安部睦美)
- 「通院で化学療法“自分らしく生きるために”」(外来化学療法室長 大谷裕)
- 「がん治療を支える口腔ケア」(歯科口腔外科科長 成相義樹)
- 「“食べること”は楽しみ」(栄養管理部技師長 森山純子)
- 「がんになっても運動」(認定理学療法士・健康運動指導士 井原伸弥)



参加された方のアンケートでは、講演について「大変良かった・良かった」という評価を多くの皆さんからいただきました。また、今後もこのような講演会を望む声も多数寄せられました。

当院は、地域がん診療連携拠点病院として、これからも市民の皆さんにがんについての情報提供に努めてまいります。多数の皆さんのご参加ありがとうございました。

患者さんからの ご意見・ご質問

Q 夜間に具合が悪くなり救急車で救急外来に運ばれました。幸い大事に至らず帰宅できました。その時に、診療費として3割負担分とは別に5,400円払いましたが、これは何ですか?

A それは「時間外選定療養費」です。当院は救急患者さんを24時間体制で受入れています。この体制を維持するために、時間外、夜間、休日に受診された場合、入院や手術を要するような患者さんを除いて、時間外選定療養費(5,400円)を負担いただいています。

●毎回、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。今後も、各種悩みごと・当院に対するご意見がありましたら、遠慮なくご相談ください。

患者相談窓口 ☎0852-60-8000(代)

表紙写真 雪化粧のがんセンター 昨年の降雪時のがんセンターの様子です。

松江市立病院 理念

松江市立病院は、市民への奉仕を第一とし、市民から愛され、信頼される病院を目指します。地域中核病院として、また自治体病院として市民ニーズに的確に応える医療を行うとともに、保健医療福祉の連携に努めます。

松江市立病院 基本方針

- 1 私たちは、患者さんへの思いやりを第一とし、市民から愛され、信頼される病院にします。
- 2 私たちは、医療水準を高め、全力を尽くして患者さんの診療にあたります。
- 3 私たちは、患者さんの権利を尊重し、信頼に基づく安全で良質な医療を提供します。
- 4 私たちは、診療所や他の病院と連携を密にし、地域医療の充実に努めます。
- 5 私たちは、健全経営に努め、明るく働きがいのある病院を創ります。

精神科 基本方針

患者の尊厳と自己決定の権利を尊重し、その権利を擁護します。

- 1 精神科救急医療への貢献をします。
- 2 精神障害者の身体合併症患者の受入を行います。
- 3 地域資源との連携を行い、地域生活移行を支援します。

緩和ケア 理念

悪性疾患を含め、すべての疾患において苦痛の緩和を必要とする患者、およびその家族の想いを可能な限り尊重する。さらに患者およびその家族の生活や希望を支え、その人らしく生きていくことができるよう最大限の支援を行う。

緩和ケア 基本方針

- 1 痛みやその他のほかの苦痛となる症状を緩和します。
- 2 患者がその人らしく生きることができるよう支えます。
- 3 無理な延命や意図的に死を招くことはしません。
- 4 病気の早い段階から適用し、積極的な治療に伴って生ずる苦痛にも専門性をもって対処します。
- 5 患者の希望に添い、在宅への支援を行います。
- 6 患者の療養中から死別した後に至るまで、家族が様々な困難に対処できるように支えます。

患者の権利宣言

松江市立病院は、患者さんの権利を尊重し、信頼にもとづく良質な医療を行うため、患者さんの権利と責務に関する宣言をここに掲げます。

1. 良質な医療を受ける権利

患者さんは、安全かつ適切で良質な医療を公平に受ける権利があります。

2. 説明や情報を得る権利

患者さんは、病状や治療法等について十分な説明と情報を得る権利があります。

3. 選択の自由と自己決定の権利

患者さんは、治療法を自らの意思で選択、決定する権利があります。

4. 個人情報の秘密保持の権利

患者さんは、診療の過程で得られた自己の個人情報の秘密が守られ、患者さんの承諾なしには開示されない権利があります。

5. 尊厳を得る権利

患者さんは、個人としての人格、価値観などを尊重され、医療従事者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

6. 患者さんの責務

- (1) 医療従事者に対し、自分の健康に関する情報を提供する責務があります。
- (2) 他の患者さんの診療に支障を与えないよう配慮する責務があります。
- (3) 医療従事者の指示を守り、治療効果をあげる努力をする責務があります。

診療日程表

平成29年12月

診療科			月	火	水	木	金
総合診療科			曾田	芦田	曾田	山田	曾田
糖尿病・内分泌内科			多田	佐々木	佐々木(初診) 多田(再診)	多田	佐々木
消化器内科			河野・加藤・堀江	谷村・三浦・吉村	堀江・加藤・村脇	吉村・村脇・三浦	竹田・谷村・河野・兼村
循環器内科	初診	岡田	三浦	大嶋	太田	山口	
	再診	-	太田・大嶋	岡田	山口・三浦	-	
呼吸器内科			小西	龍河・矢内	小西	矢内(初診) 小西(再診)	龍河
神経内科			高井・鞍嶋・中下	高井	鞍嶋・中下	高井	鞍嶋・中下
小児科			辻・掛江	米田・掛江	辻・田中	辻・米田	米田・掛江
放射線科			堀・飴谷	謝花・木村	堀・飴谷	謝花・木村	飴谷
精神神経科			奥田・小野	大竹・西口	奥田・今岡	大竹・小野	大竹・大学医師
皮膚科			松木 吉田(再診)	吉田 松木(予約のみ)	松木 吉田(再診)	松木	吉田 松木(再診)
消化器外科	初診	山田	河野	梶谷	倉吉	大谷	
	再診	菅澤・倉吉	大谷	若月・山田・大谷	河野	梶谷	
乳腺・内分泌・血管・胸部外科			内田	松井	野津	松井	野津 内田(乳腺・内分泌)
心臓血管外科			-	-	-	-	清水 14:00~16:00
脳神経外科			医師交替 (初診)	阿武	医師交替 ~9:00(初診)	辻 瀧川(再診)	瀧川 阿武(再診)
整形外科			医師交替(初診) 村上(再診)	近藤(初診) 梅木(再診)	戸田(初診) 近藤(再診)	村上(初診) 戸田(再診)	梅木(初診)
形成外科			松井	松井	松井	松井 ~9:00(初診)	松井(再診) 坂井(紹介のみ)
産婦人科	初診	入江	田代	池淵	高橋	紀川	
	再診	高橋	入江	長田	池淵	田代	
	妊婦健診	池淵	高橋	田代	長田	入江	
泌尿器科			角	瀬島	山口	角	山口・瀬島
耳鼻いんこう科			榎本・小谷	榎本・小谷	榎本・小谷	榎本・小谷	榎本・小谷
眼科			板持・堅野	板持・堅野	堅野(再診)	板持・堅野	堅野
麻酔科 緩和ケア・ ペインクリニック科	緩和ケア	岩下	安部・中右	岩下	安部・中右	医師交替	
	ペイン	-	安部(午前) 小糠	-	-	岩下・中右	
リハビリテーション科			徳田・福永	徳田	福永	徳田	徳田・福永
歯科口腔外科	午前	初診	高村	石倉	石倉	成相	小田原
		再診	成相・石倉・小田原	成相・小田原	小田原・成相・高村	石倉・高村・小田原	石倉・成相・高村
	午後	再診	小田原・石倉	小田原・石倉	成相・小田原	成相・石倉・高村	成相・小田原・高村

※都合により診療医師は変更する場合があります。



松江市立病院
MATSUE CITY HOSPITAL

●発行者/松江市立病院長 紀川純三 ●編集/広報委員会

<http://www.matsue-cityhospital.jp/>

〒690-8509 松江市乃白町32番地1 TEL(0852) 60-8000(代) FAX(0852) 60-8005